



新聞圖會

第三

号



新編
天罰
會

實ニ天罰ハ恐るべク親誕生會の夜ニ

當リ大阪近在本庄村ニ人殺シ有殺されハ

京の徳松と云壯年之其場ニ有一竹と云

女を糾問有一梅縁ある北野の

熊ヤンと云私の情郎が殺しありと

と云故熊を責れが苦痛ニ堪々

竹と徳とが蓮華洲の上で

轉ぶを見附煩悩止まら

寺ニ掛まると白状

既ニ眞鬼とあるべきを

竹の相談怪しむれが

大困とときて問落

熊を誣し極まりて

熊ハ命助かりぬ然る小竹ハ其日より痘と

瘡毒とが同發して蒲院の忌日ニ痘瘡の願

引渡されり此頃ハ淨瑠璃の鏡より罪の次第

を明白あらんと眞府の電信待との事々

行が生れ丹波国氷上郡本郷村親ハ代々



獵人まで

親の罪が

報ひら

夫の家を

脱走

自由の

權

増

上下の

口を

糊

居

た

る

亥

婦あり

舟木翁

都鳥

しる

ホリ平三

ハコ尾善板